

令和4年度 上尾市立大石北小学校 学校評価結果(学校関係者評価を含む)

領域	学校評価項目	自己評価	評定
A 信頼される 学校運営	1.学校は、教育活動を年間計画に基づいて適切に実施している。	1-1 学校教育目標の共通理解は図れているか。	A
		1-2 全体計画・年間計画に基づいた指導を実践できているか。	A
		1-3 次年度に生かす評価を実践し、改善するようになっているか。	A
	2.教職員は、校務分掌を協力して実施している。	2-1 教育活動に対して課題をもち、達成をめざす分掌組織になっているか。	A
		2-2 学年・学級相互の連絡が円滑で、学校全体として意欲や力を発揮できる組織になっているか。	B
		2-3 分掌ごとの話し合いができており、組織が機能しているか。	B
	3.学校は、積極的な生徒指導・教育相談・特別支援教育を推進している。	3 いじめ・不登校・問題行動等の未然防止対策及び速やかな対応は行えたか。	A
	4.学校は、基本的な人権を尊重する教育(いじめ防止・体罰禁止)を推進している。	4 児童一人ひとりのよさや可能性を大切に、人権を尊重する教育に努めたか。	A
	5.学校は、働き方改革を積極的に進めている。	5-1 勤務時間や休暇の取得等、ワークライフバランスに配慮した環境であったか。	A
		5-2 日課や学校行事の精選、情報機器を活用した校務の効率化が図れているか。	A
	6.教職員は、高い使命感をもって指導している。	6 教職員としての職責を理解し、教職員事故に対して自分事として捉えることができたか。	A

結果に対する学校の考え方

○教育活動は指導計画に基づき実施しました。児童の97%が「学習にしっかりと取り組んでいる」と回答しており、落ち着いた学習状況があり、今後も引き続き計画的な教育活動を展開していきます。

○いじめ防止・不登校など、児童一人一人の人権を尊重した教育については、教職員はすべて9割以上の評価をしており、教育相談等の充実に努めています。保護者は86%、児童は89%で「相談ができる」としており、今後も引き続き、相談しやすい対応に努めていきます。また、9割の児童が「思いやりの心をもち友だちに接することができる」としており、友だちを大切に生活を送っています。今後も児童の豊かな心の育成を、家庭・地域と共に育む教育を推進します。

○教職員の働き方については、校内ではICTを活用した業務の効率化を進めました。効率化が図られる一方、19%の教職員が「話し合う時間の不足」を挙げており、効率と充実のバランスを図ることが今後の課題です。

○98%の児童が「先生はよいことは褒め、悪いことは正してくれる」としており、全教職員が職責を理解して使命をもって指導しています。今後も、引き続き、情熱をもって組織的に学校運営をしていきます。

学校関係者評価

【成果に対する意見】

○教育活動は年間計画に基づいて適切に実行している。教職員は積極的に生徒指導・教育相談を行っている。教職員の働き方改革も積極的にしており、高く評価される。

○教職員が一丸となって教育活動を実施していることが伺える。教職員の話し合いを持つ時間を生み出す工夫が期待される。

○教師一人一人が児童に向き合っていると感じる。

【課題に対する意見】

○さくら連絡網で情報発信の頻度は高まっている。保護者の更なる理解のため、もっと情報発信をしてもよい。

○評価項目「2.教職員は校務分掌を協力している」について、設問2-2で評価「2」が12.9%、設問2-3で評価「2」が19.4%と比較的多いことが気になる。約2割の教職員が「話し合う時間の不足」を挙げているということで、問題点は時間不足だけなのか、原因の分析と改善策が必要と思われる。

○前年度の結果と比較し、状況を把握できるようにするべきだ。

○ICT活用で利便性が高まる一方で、話し合いをもつ時間が減ることもある。教職員間で教え合いなどで交流を図ることが大切。

○働き方改革を進めるには、定期的に仕事の棚卸しをして、時間管理をすることが必要である。

○一人の教員が全てを把握するような仕事は、やることが多くなる。複数で業務を分担する体制が必要である。

B 安心安全な教育環境	7.学校は、安全教育を適切に実施されている。	7	事件・事故・災害に対し、全教職員が意思統一を図り、適切な対応ができていますか。	A	A
	8.学校は、安全点検を行い改善がなされている。	8	安全点検を計画的に実施し、行き届いた改善がなされているか。	A	
	9.教室・特別教室等は、整理整頓されている。	9	教室・特別教室等は、整理整頓されているか。	A	
	10.児童は、清掃活動に熱心に取り組んでいる。	10	黙々清掃や用具の使い方等の指導を継続して行い、清掃活動に取り組ませることができたか。	A	
	11.児童は、安全に登下校している。	11	学校全体で、下校時の見届けや安全指導を継続的に行うことができたか。	A	

結果に対する学校の考え方

○安心安全な教育環境については、いずれの項目も教職員、保護者とも9割超で評価され、整った環境に努めることができました。今後も、整理整頓に努め、安心安全な教育環境をつくっていきます。

○9割以上の児童が、廊下歩行・清掃・安全な登下校ができたとしています。今後も、児童が自他の命を守ることができるよう安全教育を引き続き行っています。

○16%の児童は「机ロッカーの整理整頓ができない」としており、身の回りの整理整頓については、御家庭と協力して粘り強く指導をしていく必要があります。

学校関係者評価

【成果に対する意見】

- すべての教職員が安心・安全な教育環境を作り、児童のために努力していることはすばらしい。
- 避難訓練などの様子から、災害に対しての意識をしっかりと持っているように感じる。
- 整理整頓は、共有スペースはできている。

【課題に対する意見】

- 「身の回りの整理整頓」は教育活動の基礎・基本なので、指導の充実を期待する。
- 児童アンケートで「机やロッカーの整理整頓」について16%の児童ができていないと回答しており、この項目だけなぜ低い評価になってしまうのか、これは家庭でのしつけに問題があるのかよくわからない。整理整頓ができていないレベルに基準は具体的にあるのか。清掃指導への教職員の指導に関する評価と児童アンケート結果との差が気になる。
- 安全な登下校は地域の方々の見守りが大切で、大人の目は子供を守るために必要だと思う。
- 企業の安全管理者や保護者の視点で校内パトロールや下校中の雰囲気を見るため月一度程度の見守りをしてはどうか。
- 学校運営協議会委員が安全点検をする取組をしてはどうか。

C 豊かな教育活動	12.教員は、PDCAサイクルで基礎的な学力向上に努めている。	12	基礎・基本を確実に定着させる指導に取り組み、成果を上げることができたか。	A	B
	13.学校は、ICTを活用し、学びのイノベーションを推進している。	13-1	ICT端末を使って、まなびポケットや北小ポータル等各種教材を活用し、児童の情報活用能力の育成を図ることができたか。	B	
		13-2	オンライン教材等を活用して、情報モラル教育を進めることはできたか。	B	
	14.学校は、外国語教育を系統的に実施している。	14	ALTと協力して、英語活動・外国語活動・外国語を指導することができたか。	A	
	15.学校は、体験的な学習を実施している。	15-1	授業や学校行事で児童に体験的な学習を実施することができたか。	A	
		15-2	家庭や地域、学校応援団と協力・連携して児童に体験的な学習を実施することができたか。	A	
	16.学校は、今日的な課題に対応した教育を実施している。	16-1	研修主題「自分の考えを書いて表現できる児童の育成～論理的思考力の向上を目指して～」に沿った校内研修は計画的にできたか。	A	
		16-2	校内研修の成果は、日常の教育実践に生かされ、活力ある教育活動が展開できているか。	A	

結果に対する学校の考え方

○基礎基本の定着、体験的な学習、家庭地域と連携した学習指導については、様々な工夫と取組を通して推進できました。また、94%の児童が「宿題にしっかりと取り組んでいる」としており、家庭と連携した学習習慣がよく定着しています。

○外国語教育については、教職員・児童は9割以上で高評価がありました。一方、保護者は9割に達しなかったことから、外国語教育について、児童とALTとの日常的なかわりや、授業の様子などを積極的な公開や周知に努めていきます。

○ICTを活用した教育は、93%の児童が「端末を使って学習している」としていますが、情報活用能力やモラル教育の充実、教職員・保護者ともにさらに充実が必要であるとしていて、今後の重要な課題として取り組んでいきます。

○学校課題研究の発表は、授業動画配信、オンライン研究協議で実施し、ICTを使用した新たな取組をすることができました。今後も教職員の研修を進め、よりよい指導ができるよう努めていきます。

学校関係者評価

【成果に対する意見】

- 体験的な学習、課程・地域と連携した学習・指導に取り組んでいることは高く評価される。ICT活用も積極的に取組み、教職員もがんばっている。
- コロナ禍のリモート授業は学校も家庭も大変だったと思うが、工夫されていてよかった。
- ささら獅子舞やさつまいもほり、音楽鑑賞会など、外部の方をよんでの授業は子供たちにとって貴重な経験になっている。

【課題に対する意見】

- 知的な教育はかなり充実してきているので、徳・体に関する教育活動の充実を期待する。
- こういう時代だからこそ、体験的な学習を充実させるなかで身体と心を鍛えることが大切。
- 評価項目「13.学校はICTを活用し、学びのイノベーションを推進している」について、教職員と保護者の双方で約1割以上が上手くないと感じている。「オンライン教材を活用して、情報モラル教育を進めることができたか」という項目で、訳割弱の教職員が不十分と感じているようだ。情報セキュリティ教育について、教職員と保護者の評価にかなりずれがあることが気になった。
- 外国語の授業をもっと参観できるとよい。
- 感性豊かなこの時期になるべく多くの体験をさせてあげたい。

D 健全な 児童の 育成	17.教師は、学習規律を繰り返し指導し、児童は落ち着いて学んでいる。	17	学習規律を繰り返し指導し、定着させることができたか。	A	A
	18.学校は、児童にあいさつ・返事を繰り返し指導している。	18	「進んであいさつ」・「はっきりした返事」をする指導を継続し、定着させることができたか。	A	
	19.学校は、児童に読書習慣を身に付けさせている。	19	図書室を積極的に活用したり、家庭や図書支援員と協力したりして、児童の読書習慣を育てることができたか。	A	
	20.学校は、健康教育を適切に実施している。	20	養護教諭や保健主事等と協力して、児童の健康教育を充実させることができたか。	A	

結果に対する学校の考え方

○学習規律については、日頃から繰り返し指導を行い、児童もよくまわりを守って生活しています。今後も、規律ある中で落ち着いて学習できるよう指導していきます。

○あいさつについては、本校の重点として繰り返し指導していますが、保護者・児童の認識は87%と一致しており、引き続きあいさつ・返事がしっかりとできる児童の育成を家庭・地域と連携しながら粘り強く取り組んでいきます。

○読書教育については、学校・保護者・児童の結果に認識の開きがあり、読書習慣の形成を進めていくことが課題です。家庭と連携して、読書に親しむ児童が育成できるよう工夫していきます。

○今年度も感染症対策を継続しながらの教育活動でした。学校全体で手洗い・歯磨きなどの健康管理について危機意識をもって行動ができています。今後も、児童が主体的に健康な生活を送れるよう取り組んでいきます。

学校関係者評価

【成果に対する意見】

- 規律ある学校生活の中で落ち着いて学習されている。校内では、あいさつ・返事もよくされている。
- あいさつは少しずつしっかりできる子も増えてきている。
- コロナ対策を行いながら、教育活動を行っていただきありがたい。

【課題に対する意見】

- まだまだ声が出ない子もいるので「はっきり声を出して あいさつができる子」の育成を目指してほしい。声を出すことについては根気よく指導をする必要がある。
- 登下校のとき、声をかけても下を向いたりして声が返ってこないこともありさびしい。班長ができると下級生もよくできる。
- 評価項目「19.学校は児童に読書習慣を身に付けさせている」の教職員の評価「2」が9.7%、「1」が0%であるのに対し、保護者は「13.児童は家庭でも読書をしている」の評価「2」が33.7%、「1」が6.0%で、4割弱が否定的な評価をしている。児童は学校ではよく読書をするが、家庭ではほとんど読書しないという傾向がみられる。本当の意味で人生を豊にする読書習慣を身に付けさせたい。
- 朝読書の習慣が続くとよい。
- 健康は体力から。時をみて体力向上を。
- 他人と補完し合う成功体験となる教育活動ができるとよい。

E 連携 保護 者 C ・ S 地 域	21.情報が適切に発信されている。	21	学校は、教育方針、教育活動についてさくら連絡網や通信、HPを通じて、積極的に家庭・地域に伝えているか。	A	B
	22.保護者・地域の相談・意見に誠実に対応している。	22	保護者から相談があった場合は、すぐに管理職や学年主任に報告するなど組織的に対応することができたか。	A	
	23.学校運営協議会は適切に運営されている。	23	学校運営協議会の議事録等について、理解していたか。	B	

結果に対する学校の考え方

○さくら連絡網やHPを通じた情報発信については、工夫して行いました。また、個人面談のオンライン予約など、保護者の利便性を図ることもできました。今後も、わかりやすい情報発信に努めていきます。

○学校運営協議会については、情報公開や情報発信に課題があります。今後は、学校運営協議会の理解が深まるよう、工夫していきます。

学校関係者評価

【成果に対する意見】

- わかりやすい情報発信を行っており、今後も続けてほしい。学校運営協議会での情報発信に課題が少し残る。
- 親父の会の協力等により、地域との連携はすばらしいものがある。さらなる充実を期待する。
- さくら連絡網に教育活動の紹介が写真付きで送られてくるのは、子供たちの様子を見ることができ、とてもよい。

【課題に対する意見】

- 保護者は学校との情報共有について、約1割強が不満をもっていることがわかる。学校運営協議会の運営について、教職員の約2割が議事録等に理解していないようだ。議事録は学校運営協議会の場において、前回の議事録の確認を行う手続きが大切だと思う。
- 学校運営協議会の議事録を回覧するなど周知を工夫するとよい。
- 学校運営協議会は自分が関わるまで内容を知らなかった。公開と言ってもなかなか足を運ぶのも難しいと思うので、後日様子をさくら連絡網等で話し合う姿を流すのはどうか。
- 地域連携のためにはあいさつ、コミュニケーションが大切。児童に地域はみんなの味方だという認識をしてもらうのが先決。